

平成 26 年度 木育マイスター育成研修 委託業務

業 務 実 施 報 告 書

も く じ

● 事業概要	2
● 事業スケジュール	3
● プログラムの作成	
プログラム作成	4
研修日程の設定	4
現地情報の収集	5
受講生の募集と選定方法	5
● 研修会の実施	
第 1 回	6
第 2 回	9
● O J T の実施	11
● まとめ	16
● 添付資料	17
① 広報チラシ	
② OJT 自己評価シート	
③ アンケート集計	



## ●事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、地域において指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に、木育マイスター育成研修を行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは6つに分かれており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画のやり方である。

道北地域を会場とし、1泊2日の講座を前半（9月頭）と後半（10月末）の2回行った。OJTは、9月から10月中旬に行った。

当カリキュラムを修了すると、「木育マイスター」として北海道に認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。平成26年度の第5期生として20名の木育マイスターが誕生した。

### ・本事業における業務

#### 1)受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体への広報を行う。

メディアリリースなどで広く一般からも参加者を募る。

#### 2)研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習においてテキスト内容を全て履修できるカリキュラム設定を行う。

第1回目と第2回目の2回に分けて、研修会を行う。

#### 3)OJT研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するためのOJTを実施する。



## ●事業スケジュール

---

### ■事業スケジュール

前年までの講座の反省点を踏まえながら、よりよい研修にするよう講師陣の意見も取り入れて、カリキュラムの詳細を再検討した。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。

6月中旬～7月下旬	講師陣と打合せ、研修日程、会場等決定、広報準備
7月7日	受講生募集の広報開始
8月18日	応募締切・選定
7月中旬～9月中旬	第1回講座関係団体と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月7日-8日	第1回講座
9月中旬～10月下旬	第2回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月28日	OJT第1回目実施
10月26日-27日	第2回講座

## ●プログラムの作成

### ■プログラム作成

テキスト「木育達人入門」に基づき、プログラムはテキストの章立てに合わせ、第1章から第6章の内容を2日間×2回の全4日間と、OJTを一回以上受講することとした。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。

昨年度研修のアンケート結果などを踏まえ、よりわかりやすく実践的なカリキュラムになるよう、講師や内容の検討を行い、プログラムを作成した。

### ■研修日程の設定

野外でも活動しやすい、秋の季節に研修を行うこととし、日程を設定した。平日勤務の方も土日勤務の方も参加しやすいよう、日曜・月曜の研修とした。

#### ◆第1回目 第1回目 2014/9/7(日)～8(月)

【9/7】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:30		開会式				東川町 農業環境改 善センター
10:00～ 12:30	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育が生まれた背景と 現在の位置づけ	2.5H	
12:30		昼食				
13:30～ 15:00	5章1	体験学習の理解	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1.5H	
15:00～ 17:00	4章	木と生きる ～人の成長と木の関係～	大和 正枝	子供の発達の特性と 過程、人を癒す木の働き	2H	

【9/8】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:30	2章	木とふれあい、木に学ぶ	宮本 英樹	森林の定義、 北海道の森林の特徴	2.5H	東川町 キトウシ森 林公園情報 センター
11:30		昼食				
バス移動						
12:30～ 15:00	2章	木とふれあい、木に学ぶ	林産試験場	木材の構造と性質	2.5H	林産試験場
15:00～ 17:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	カンディハウス	林業・木材産業の今	2.5H	カンディ ハウス

◆第2回目 2014/10/26(日)～27(月)

【10/26】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
13:00～ 16:00	5章 2-3	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	3H	東川町 キトウシ森 林公園情報 センター
16:00～ 18:00	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	煙山 泰子	木工体験	2H	

【10/27】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:00	3章 2-3	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木 木の道具	2H	東川町 キトウシ森 林公園情報 センター
11:00～ 12:00	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りで 大切にしたいこと	1H	
12:00		昼食				
13:00～ 16:30	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎、 模擬演習	3.5H	

## ■現地情報の収集

現地情報の収集は当法人のネットワークのほか、木育ファミリーのネットワークや、平成22～25年度研修の受講生である木育マイスターに協力してもらい行った。第1回研修では、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場、株式会社カンディハウスにご協力いただき、見学工場についての情報を共有し、研修内容についての打合せを行った。第2回の研修ではキトウシ森林公園の管理者である株式会社東川振興公社にご協力いただき、研修会場や周辺の森について、また研修で使用する公園内の木材の手配などについて打合せを行い、研修内容と活動場所を決定した。

下見の際、現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

## ■受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道新聞へのメディアリリース、北海道と当法人のHPへの掲載、北海道内の木育関係施設への募集チラシの配布を行った。また、「木育ファミリーメーリングリスト」や「わくわく木育通信」など木育関係者に対しての情報提供を行った。定員20名に対して56名の応募があり、抽選により20名の受講生を決定した。

## ●研修会の実施

### ■第1回目 平成26年9月7日-9月8日

◆1日目(9/7) 東川町 農業環境改善センター 受講者数：20名

9:30 開会式

10:00 木育の理念 (KEM工房 煙山泰子)

木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マスターの目指すものについて学んだ。アイスブレイクを兼ねて、参加者が各自の木の思い出の品について発表し、自分と木のつながりを再認識した。

木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験し、木育のイメージを広げた。また、様々な木育事例を紹介し、木育の幅広さを認識した。



13:30 体験学習の理解

(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

森林と木材がメビウスの輪のように表裏一体の存在であることや、木育マスターはそれらをつなぐ役割をすることを確認した。また、体験を通して概念を理解する、「体験学習」の教育手法を学ぶことを目的に、野外で受講生たちが実際に体験学習のアクティビティを体験し、アイスブレイクの大切さ、手法を学んだ。



15:00 木と生きる～人の成長と木の関係～

(木育マスター1期生 大和正枝)

「子どもの発達の特徴と過程」について、子どもたちの発達を促すために多様な自然の中で育つことの大切さについての話があった。また、子どもがその発達過程に合ったおもちゃで遊ぶことで、より発達を促せることについて学んだ。実際にいろんな国のおもちゃで受講生が遊ぶことで、おもちゃの奥深さを知る一端となった。



17:00 終了

◆2日目(9/8) 東川町 キトウシ森林公園情報センター、林産試験場、カンディハウス

受講者数：20名

9:00 木とふれあい、木に学ぶ

(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

森林に関する基礎的知識を身につけるために、キトウシ森林公園内で樹木観察を行い様々な樹種の特徴や、森の成り立ち、場所による森・樹木の違いなどについて学んだ。実際に森の中で樹木図鑑片手に講義を受けることで、受講生の理解もより深まった。



11:30 昼食、バス移動

12:30 木とふれあい、木に学ぶ

(地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

森林研究本部 林産試験場

利用部バイオマスG 研究主査大崎)

森の木が木材になる過程を理解するために、林産試験場で切り出した丸太の皮をむき、板に加工し、乾燥をかける製材過程に使われる機械などを見学した。また、木工製品に用いられる木材の種類と特徴について学んだ。



15:00 木と生きる～暮らしと産業～

(株式会社カンディハウス

人事総務部部长 笠松 伸一)

木材が加工され消費者に届けられる製品となるまでの過程を理解するために、旭川市内の株式会社カンディハウスで加工の現場を見学した。地元北海道の木を伐って、使って、植えて、育てる「森を守る家具づくり」の仕組み「ここの木家具・旭川プロジェクト」への参加など家具メーカーの多様な取り組みについて学んだ。



17:30 終了



## ■第2回目 平成 26 年 10 月 26 日-10 月 27 日

◆1 日目 (10/26) 東川町 キトウシ森林公園情報センター 受講者数：20 名

13:00 木育はつながりのキーワード

～プログラムの伝え方～

(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

より効果的な伝え方や指導法を学ぶための講義を受けた。アイスブレイクを通じて、言語を使わない表情や目、ジェスチャーなどが物事を伝える際に重要なツールとなることを体感した。受講生一人一人のOJTでの体験を全体で共有し、共通する重要なキーワードに着目したことで、個人の体験を踏まえた学びの促進ができた。



森に出て、木工体験で使用する木の調達を行った。8.2mほどの木を滑車とロープを使って木が倒れる方向を確保しながら切り出した。



16:00 木と生きる～暮らしと産業～

(KEM工房 煙山泰子)

森にある木が自分たちの身の回りの道具になる事、緑と茶色の木育が繋がっていることを体感するため、木工体験を行った。森に行きオニグルミやオオバボダイジュ等の枝を切り、その生木を人力で加工するグリーンウッドワークを体験した。生木の削りやすさ、瑞々しさといった感覚を味わい、一般的な乾燥材を使う木工との違いを学んだ。また、生木と乾燥した木の違いを体感するため、木のマグネットを作成した。木のマグネットはヤスリがけとクルミのオイルをぬる簡単な作業であるが、受講生は集中して取り組んでいた。



18:00 終了

◆2日目(10/27) 東川町 キトウシ森林公園情報センター 受講者数：20名

9:00 木と生きる～暮らしと産業～

(フリーライター 西川栄明)

木材の性質や用途を理解するための講義を受けた。

木製品の遺跡を見ながら、古くから生活の中で木が使用されていたことを学んだ。多種類の木のサンプルを見たり触ったりしながら、五感を使って、木の特徴を確認した。用途に応じた木の性質や樹種、柃目・板目などの製材方法とその用途を学び、「適材適所」で木材が使われていることを理解した。



11:00 木育はつながりのキーワード

～プログラムの作り方～

(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

プログラムを運営するにあたってより効果的な伝え方や安全管理などを学んだ。非言語でコミュニケーションをとるアイスブレイクの手法を体験した。やる気のない参加者への対応方法などをシミュレーションをしながら議論し、リクスマネージメントについて理解した。



12:00 昼食

13:00 木育はつながりのキーワード

～プログラムの作り方～

(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

木育プログラムを作成できるようになることを目的に、木育プログラムの構成に関する知識、企画づくりの基礎(資源調査、対象者分析、コンセプトづくり)を学んだ。受講生自身が行っている活動等に関連して、取り組みたいテーマを提案してもらい、決定した5つのテーマに沿ってグループワークにより5つのプログラムを企画し、発表をした。最後に各自の「木育宣言」を発表し、全4日間の研修のまとめをした。



16:30 終了

## ●OJTの実施

OJTは第1回研修と第2回研修の間に実施することで、その経験を、後半の第2回研修に活かせるようにした。道内全域（道央地域、道北地域、十勝地域、道東地域、道南地域）で計15回のOJTを実施した。OJT実施に当たっては、受け入れ団体と綿密な調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。

OJT当日は、プログラムの事前準備や打合せ、振り返りまで参加してもらい、イベントを運営するマネジメント手法や実際のプログラム手法、注意点などを体験的に学んだ。OJT終了後は、研修生に自己評価シートに自分の役割、評価・反省点、感想などを記入してもらうことで、OJTの内容を振り返り、今後の自身の活動に生かせるようにした。

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ人数)
1	9/28(日)	ねおす	苫小牧市	子ども・大人向けの木育プログラム(森づくり)の運営補助をする	1
2	9/30(火)～ 10/5(日)	ねおす	札幌市 (円山公園)	小学生を対象とした、木育プログラム(森づくり)の運営補助をする	1
3	10/5(日)	ねおす	札幌市中央区	未就学児の親子対象の木育プログラムの運営補助をする	1
4	10/13(月・祝)	ねおす	札幌市中央区 (旭山記念公園)	旭山記念公園秋のフェスタにて木育プログラム(自然体験)の運営補助をする	4
5	10/18(土)	木育マイスター	札幌市 (旧道庁赤レンガ前)	「道民森づくりネットワークの集い」で木育プログラムの運営補助をする	2
6	10/20(月)	ねおす	札幌市 (円山公園)	幼児・幼児親子を対象として木育プログラム(自然体験)の補助をする	2
7	毎週火・ 木曜日	ねおす	札幌市 (円山動物園)	小学生のアフタースクールで木育プログラムの運営補助をする	2
8	毎週水曜日	ねおす	苫小牧市 (ひかりの国幼稚園)	苫小牧市の幼稚園で木育プログラムの運営補助をする	2
9	9/21(日)・ 23(火祝)	ねおす	旭川市(北海道マイ ホームセンター)	子ども・大人向けの木育イベントでのプログラムの運営補助をする	2
10	10/18(土)	ねおす	東川町 (キトウシ森林公園)	子ども・大人向けの木育プログラム(森づくり)の運営補助をする行方	2
11	10/9(木)	木育マイスター (日月)	帯広市(帯広の森・ はぐくむ)	小学生を対象とした、木育プログラム(森のお手入れなど)の補助をする	3

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ人数)
12	10/12(日)	木育マスター (戸川)	帯広市	「岩内仙峡もみじ祭」で、木育体験プログラムの補助を行う	1
13	10/19(日)	木育マスター (日月)	帯広市(帯広の森・はぐくむ)	「はぐくむ秋まつり」で、木育体験プログラムの補助を行う	2
14	10/9(木)	KEM工房 (煙山)	津別町	津別町の小学校で木育プログラムの補助を行う	3
15	10/5(日)	木育マスター (西埜)	七飯町(大沼ふるさと の森自然学校)	木育マスターが主宰する木育イベント(木育フェスタ)の企画・運営の補助をする	1

1. 9/28 (日) 9:30~16:00

講師: NPO 法人ねおす 上田融、山田由美子

場所: 苫小牧市 和みの森

参加者: 子ども約 70 名、大人 60 名

OJT 受講者: 笠居貴紀

内容: 子ども~大人対象のプログラム  
(スプーン・フォーク作り、木刀作り)



2. 9/30(火)~10/5(日) (10/4・5)

12:30~18:00

講師: NPO 法人ねおす

富田桂太、中村真由美

場所: 札幌市 円山公園

参加者: 子ども約 35 名・大人約 27 名

OJT 受講者: 北川真紀子

内容: 小学生対象のプログラム  
(まるやまプレーパーク)



3. 10/5 (日) 8:30~15:00

講師: NPO 法人ねおす 高野克也

場所: 札幌市 旭山記念公園

参加者: 子ども 9 名、大人 5 名

OJT 受講者: 山田奈那子

内容: 未就学児の親子対象のプログラム  
(自然体験・葉っぱスタンプほか)

4. 10/13 (月祝) 8:30~16:30

講師：NPO 法人ねおす 高野克也  
場所：札幌市 旭山記念公園  
参加者：子ども 32 名、大人 43 名  
OJT 受講者：富澤祐二、北川真紀子、  
横山知巳、田中良  
内容：子ども～大人対象のプログラム  
(旭山森のフェスティバル 2014)



5. 10/18 (土) 8:30~16:30

講師：NPO 法人ねおす 高野克也  
場所：札幌市 旧道庁赤レンガ前  
参加者：子ども 26 名、大人 45 名  
OJT 受講者：坪江利香、北川真紀子  
内容：子ども～大人対象のプログラム  
(道民森づくりネットワークの集い 2014)



6. 10/20 (月) 9:00~13:00

講師：NPO 法人ねおす 高野克也  
場所：札幌市 円山公園  
参加者：子ども約 50 名、大人 50 名  
OJT 受講者：山田奈那子、坪江利香  
内容：幼児・幼児親子対象のプログラム  
(自然体験)



7. 毎週火・木曜日 (9/16、9/25) 14:30~18:30

講師：木育マイスター 高野克也  
場所：札幌市 円山公園  
参加者：子ども 9 名、大人 6 名  
OJT 受講者：浜舘三裕姫、幸坂竜平  
内容：小学生対象のプログラム  
(アフタースクール内の自然体験)

8. 毎週水曜 (9/17、10/15) 9:00~17:00  
講 師: NPO 法人ねおす 上田、山田  
場 所: 苫小牧市 ひかりの国幼稚園  
参 加 者: 子ども 24 名  
OJT 受 講 者: 工藤亜紀、浜舘三裕姫  
内 容: 幼稚園児対象のプログラム  
(りすのお弁当作りほか)



9. 9/21 (日)・23 (火祝) 9:45~16:30  
講 師: NPO 法人ねおす 荒井一洋、木村恵巳  
場 所: 旭川市 旭川マイホームセンタ  
参 加 者: 子ども 33 名、大人 27 名  
OJT 受 講 者: 島田幸季、大坪良子  
内 容: 子ども~大人対象のプログラム  
(木のキーホルダー作りほか)



10. 10/18 (土) 9:30~13:00  
講 師: NPO 法人ねおす 木村恵巳  
場 所: 東川町 キトウシ森林公園  
参 加 者: 子ども 16 名、大人 11 名  
OJT 受 講 者: 大坪良子、前田あやの  
内 容: 子ども~大人対象のプログラム  
(森の幼稚園・森作り)



11. 10/9 (木) 8:45~12:00  
講 師: 木育マイスター 日月伸  
場 所: 帯広市 帯広の森はぐく一む  
参 加 者: 子ども 50 名、大人 12 名  
OJT 受 講 者: 島田幸季、大路めぐみ、小原和弘  
内 容: 小学生対象のプログラム  
(森のお手入れ、パン焼き)

12. 10/12 (日) 9:00~14:30

講師：木育マイスター 戸川

場所：帯広市 岩内仙峡

0JT 受講者：小原和弘

内容：子ども～大人対象のプログラム  
(岩内仙峡もみじ祭)



13. 10/19 (土) 9:00~15:30

講師：木育マイスター 日月伸

場所：帯広市 帯広の森 はぐく一む

0JT 受講者：中村祐樹、吹谷真一

内容：子ども～大人対象のプログラム  
(はぐく一む秋まつり)



14. 10/9 (火) 9:45~16:00

講師：KEM 工房 煙山泰子

場所：津別町 津別 21世紀の森  
森林学習展示館

参加者：子ども 30名、大人 3名

0JT 受講者：前田あやの、田原美奈、菅野明人

内容：小学校3・5年生対象のプログラム  
(津別 木育事業 2014 第3回)



15. 10/5 (日) 9:00~17:00

講師：木育マイスター 西埜将世

場所：七飯町 大沼ふるさとの森自然学校

参加者：子ども約 50名、大人約 50名

0JT 受講者：村上嘉子

内容：子ども～大人対象のプログラム  
(木育フェスタ)

## ●まとめ

---

### ・受講人数について

平成 26 年度木育マイスター育成研修は、定員 20 名のところ、倍を超える 56 名の申し込みがあったため、抽選で 20 名に絞り受講者を決定した。

### ・会場について

今年度は、平成 23 年度以来 3 年振りに道北地域・東川町で実施した。主な研修会場となったキトウシ森林公園家族旅行村は、公共交通機関での移動手段が乏しく遠方の受講生から会場への交通手段への配慮を求めるとの声があった。自家用車に頼らずに会場へ行くことができるよう。公共交通機関の確認が必要である。

### ・研修時期について

講座は、秋（第 1 回目が 9 月、第 2 回目が 10 月）に実施した。OJT は昨年同様 1 回目と 2 回目の間（9 月～10 月）に行うことを基本とし、OJT で経験したことを第 2 回目研修で活かせるようにしたことで、第 2 回目研修の際に受講生の理解がより深まったと思われる。

### ・カリキュラム・スケジュールについて

研修終了後に受講生から取ったアンケートによると、カリキュラムについては概ね満足を得られている。ただ、木育マイスターにとって不可欠な、「森林と木材がメビウスの輪のような関係である」という概念を理解してもらえよう、様々な分野の講義・実習・見学を盛り込んでいるため、一つ一つの分野にかける時間がどうしても短くなり、講義時間が「短かった」と回答した人や「もう少し長い研修でもいいと思う」といった声もあった。

### ・今後の木育について

平成 22 年度から実施されている本研修であるが、22 年度は 38 名、23 年度は 37 名、24 年度は 39 名、25 年度は 19 名と、合計 133 名の木育マイスターが誕生した。木育マイスター 1～4 期生は、木育マイスターメーリングリスト内で情報交換、意見交換を行うなどして、交流が進んでいる。また、今年度研修の OJT の受入先や、講師となっていたいたり、各人の地域・会社などで木育プログラムや木育フェスタを実施したりと、それぞれの地域・立場で活躍中である。また、木育マイスター道南支部が設立されたこともあり、木育マイスターが各地域でつながり多様な活動を展開する意識が高まっている。

今後、さらに北海道の木育の普及を推進していくためには、この 5 年間の研修で誕生した木育マイスター同士のネットワークをより強固なものとし、協力しあって木育の普及に取り組んでいくことが必要である。

今年度の研修では定員の 2 倍を超える申し込みがあり、この研修の受講希望者はまだまだいると思われる。北海道の木育を進めていくためにも、本研修は継続して行われる必要があると考える。